

久保・長江中学校区の学校再編に係る第2回長江小学校区地域説明会議事録

- 1 日 時 令和5年6月7日（水） 18：00～20：10
 2 場 所 長江公民館
 3 出席者 地域住民 17名
 教育委員会事務局 11名

宮本教育長、川鱈教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
 三浦学校経営企画課長、石川庶務課管理係長、岡田庶務課管理係主任
 才谷教育指導課指導主事、安保学校経営企画課学校経営支援室長
 宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課管理係主任

4 進 行

担 当	内 容
宮本教育長	18：00～ 1 開会 2 教育長挨拶 皆さんこんばんは。この4月に教育長に就任いたしました宮本佳宏と申します。どうぞよろしく願いいたします。本日はお忙しい中、地域説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私の就任前のことですが、3月30日に第1回の地域説明会を開催し、教育委員会の再編案についてご説明を申し上げ、多くのご意見をいただいたと聞いております。本日は改めて教育委員会の案をご説明申し上げ、ご意見を頂戴したいと考えております。前回の説明会では、小中一貫教育校ではどんな学校を目指そうとしているのか、どんな教育を行おうとしているのかの説明が不十分であったと感じております。そこで、目指す学校像や教育内容、学校の施設などについて、より具体的に説明をさせていただきたいと思っております。 そして、学校再編についての教育長としての思いや考えもお話させていただければと思っております。年度が変わりましたので、もしかすると、本日初めてお越しいただいた方もいらっしゃるのではないかと思います。これまでの経過や、これまで行った説明内容につきましても、遠慮なくお尋ねいただきまして、実りある会になればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。
教育委員会事務局（司会）	事務局自己紹介 まず初めに資料の確認をさせていただきます。まず、本日のレジメが1枚目になります。次に資料1が前面に映されたスライド資料になります。資料2がこれまでの経緯と今後の予定となります。資料3がこれまでの説明会等の参加状況になります。資料4が3月25日から3月30日までに行った地域説明会での意見、主な質問になります。本日はこの後、教育委員会事務局からの説明を約40分行い、その後学校再編について教育長の思いを述べさせていただきます。その後、質疑応答を行いたいと考えております。本日の終了時刻は20時を予

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>3 説明</p> <p>これまで育友会・PTA役員と教育委員会との意見交換会や保護者・地域の説明会で説明してきましたとおり、現在提案している新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土台作りのできる学校」を目指し、教育環境や教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>学校再編の案については、2月5日にしまなみ交流館にて保護者説明会を開催、また、3月25日から3月30日まで、小学校区ごとに地域説明会を開催し、様々なご意見をいただきました。本日は、各地域説明会の様子をお伝えするとともに、保護者説明会や全ての地域からご質問いただきました、小中一貫教育校の教育内容等について説明し、改めてみなさまにご理解をいただきたいと考え、第2回地域説明会を開催させていただきました。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、最初に、改めて、学校再編案について説明いたします。次に、小中一貫教育校の教育内容について、具体的に説明いたします。また、小中一貫教育校の施設について、そして、これまでの経緯といただいたご意見について、説明いたします。</p> <p>まず、学校再編案についてですが、昨年11月22日にご覧のような再編案をお示ししました。久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合、山波小学校は、1つの学校として存続、久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合し、久保小学校・長江小学校・土堂小学校の統合校と山波小学校の卒業生が、進学します。</p> <p>これらの3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月開校を目指します。</p> <p>久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。</p> <p>これまでの取組ですが、平成21年度から平成31年度にかけて、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化の検討を行ってまいりました。</p> <p>進入路が狭いこと、児童が居ながらでの工事が困難であること、改築や減築が必要な工事が生じたこと、また期間中に、土砂災害防止法に基づく警戒区域等の指定があったことにより、新たな校舎が建築可能な場所が限られ、現在地での耐震化を断念し、あわせて、中学校を含めた検討を開始しております。令和3年度において、安全性の確保を目的として、仮校舎への移転を行いました。</p> <p>その後、今回提案させていただいております、久保・長江中学校区学</p>
-------------------	---

校再編の検討を行いました。

仮校舎移転前より、中学校を含めた検討を行ってまいりましたが、学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討を行っております。

検討に当たっては、次の3点を基本的な考え方として、検討を行いました。

①の安全性の確保については、学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わないこと。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

②校舎の耐久性については、文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わないこと。久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、③適正な学校規模の確保については、尾道市教育委員会は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行いません。

また、小中一貫教育校についてですが、学校の組織としては、3つの学校は従来通りそれぞれが独立した学校です。新しい小学校、山波小学校、新しい中学校のそれぞれに、校長と教員組織があり、児童はそれぞれの小学校を卒業した後、指定学校となる新しい中学校に入学します。現在、小学校と中学校は、それぞれが目指す子供像を設定し、6年間または3年間の教育課程を編成して教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が、共通の学校教育目標の下、目指す子供像を共有し、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。義務教育9年間で教育課程を考えることにより、これまで以上に魅力的で子供たちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。また、教育研究の研究主題や、生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が、共通の指導方法で9年間児童生徒に対応することが可能となります。

画面に出ているパンフレットは、これまでの説明会でお示ししているものです。

このパンフレットで示している内容は、実現できるように検討しています。例えば、「知」確かな学力では、高学年への教科担任制の導入、「徳」豊かな心では、おのみち学、郷土愛の充実、「体」健やかな体では、健康で活力ある児童生徒の育成、「信頼」地域に開かれた学校づく

<p>才谷教育指導課 指導主事</p>	<p>りでは、新たな中学校区をコミュニティ・スクールとし、魅力ある学校にしていきたいと考えています。</p> <p>次に、小中一貫教育校の教育内容について説明します。</p> <p>初めに、小中一貫教育校で目指す児童生徒のゴールイメージです。</p> <p>小学校での学びの集大成として、「おのみち学」等で学んだことを発表する「伝統文化祭」のイメージです。このような場を設定し、保護者や地域の方と、子供たちの成長を喜び合いたいと考えています。</p> <p>中学校では、9年間の探究的な学びの集大成として、「まちづくり政策提案発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。</p> <p>これから新しい学校の教育内容面について現在構想していることを、「目指す子供像」「教育資源」「教育内容」の3点について、説明させていただきます。</p> <p>まず、小中一貫教育校の目指す子供像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子供」と考えています。ここには「子供たちが尾道で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いてほしい」という願いを込めています。</p> <p>9年間の学びで育てる力は、小中一貫教育校の出口を意識し、15歳の生徒に身に付けさせたい力として、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。</p> <p>また、育てたい資質・能力として、学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。</p> <p>これは学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子供たちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育校においても、これら3つの力をバランスよく育てていくことが大切だと考えています。</p> <p>これまで説明した資質・能力等を育成していくため、尾道らしさ、尾道ならではの視点を持って学びの在り方を考えています。そのために、尾道の教育資源である歴史、文化、産業等を確認しておきます。</p> <p>「歴史から学ぶ」として、港町尾道の誕生と発展です。平安時代の第1期黄金時代では、尾道が年貢米の積出港となり、江戸時代の第2期黄金時代では、北前船の寄港地、西国街道や出雲街道による人と物流の交流点となり、明治時代の第3期黄金時代では、鉄道開通、銀行設立、市制施行等が行われ発展していきました。</p> <p>「文化・産業から学ぶ」として、魅力ある歴史文化の継承です。尾道には、囲碁文化、茶文化、石工文化等が発展し、歴史的遺産としての国宝や多くの重要文化財があります。祇園祭、山波とんど行事（神明祭）などの祭りも伝統文化として継承されています。また、尾道は3つの「日本遺産」、箱庭的都市尾道、村上海賊、北前船の認定を受けています。</p>
-------------------------	---

そして現在、未来へ向けて、第4期黄金時代を自分たちが作っていくんだという気概に満ちた、世界とつながるものづくりや日本に誇る農林水産業が行われています。

「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に貢献された、平山角左衛門、三木半左衛門、山口玄洞（げんどう）などの先人や、自分の信念を持ちやり抜き、美術界、文学界の発展に貢献された、小林和作、林芙美子などの先人が、まちづくりや芸術文化について導いてこられ現在の尾道の発展につながっています。

このような尾道独自の視点を踏まえた学びを実現していくためには、次の3つを意識して教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

1つ目は、「グローバルな学び」（世界を意識した学び）と、「ローカルな学び」（尾道という地域を意識した学び）を組み合わせることで教育内容を創造していくことです。

2つ目は、「個別最適な学び」（児童生徒が自分の目標や進度にあったやり方で学習を進めたり、自分の興味関心のあるものを選んで学習を進めたりする学び）と、「協働的な学び」（学級に限らず、異なる学年の児童生徒や地域の人々などと協力しながら、主体的に問題解決していく学び）を組み合わせることで、1時間の授業や単元を工夫した教育内容を創造していくことです。

3つ目は、1つ目の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と2つ目の「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせることで9年間の学びを創造していくことです。

具体的には、「グローバル」な学びの創造として、世界につながる英語教育やキャリア教育を充実していきます。

英語教育では、小学校1年生から外国語活動を導入したいと考えています。1・2年生は年間20時間程度、学級担任とALTまたは非常勤講師により授業を展開し、3・4年生の外国語活動につなげていきたいと思っています。早期に導入することにより学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がることを期待しています。

近隣高等学校と連携することにより、小中学校とともに校内暗唱大会、スピーチコンテスト、ディベート等による表現力の向上が期待できます。ALTを中学校に常駐させることに加え、市教委ALTを小中学校へ派遣することで、小学校では学期に1日程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュデーを、中学校では学期に1週間程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュウィークを設定できないか考えています。英語以外の教科でも英語に親しむことにより児童生徒の興味・関心が高まったり言語能力が育まれたりしていくものと考えています。

また、友好交流都市である台湾嘉義市の小中学校とオンラインによる交流を続けるとともに、英語圏の小中学校とのオンラインによる交流も検討していき、コミュニケーション能力や発信力の向上を目指していきたいと考えています。

グローバルな学びでのキャリア教育では、地元企業や事業所等との連携により職業観、勤労観を育成していきます。

小中学校では、地元企業や事業所等への訪問学習や出前授業を企画、実行し、児童生徒が企業等の技術や、職業人としてのキャリア等を直接学ぶことを繰り返し、視野を広げ夢や志につなげてほしいと考えています。また望ましい職業観、勤労観を育成していきたいと考えています。

次に、「ローカル」な学びの創造として、総合的な学習の時間を核として、ふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学ぶ「おのみち学」を充実していきます。

これまで各学校で引き継がれてきた伝統である、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動を再構成し教育内容とすることで、郷土を愛する心を育てます。

例えば、新しい小学校では、能や太鼓、山波小学校では神楽、中学校1年生では茶道というように小学校の地域性や児童生徒の発達段階も考慮しながら、礼儀作法を身につけたり、日本の伝統文化を感じたりすることができるな教育内容を創っていきたくと考えています。また、縦割りでの教育活動を取り入れ、児童同士、生徒同士の関わりを深めていくことや、中学生の姿から小学生が「あこがれ感」をもつような教育活動も仕組んでいけたらと考えています。

ローカルな学びのキャリア教育では、中学校では、地元企業等への職場体験活動や市内の高等学校や尾道市立大学への訪問を通じた進路学習を行い、進路指導の充実を図り社会的自立に向けた力を育てていきます。

また、現在と同様に、小学校4年生で2分の1成人式を、中学校2年生で立志式を実施し、自らの志を立て、これからの人生を逞しく生き抜こうとする自覚・意欲を高めてほしいと考えています。

小学校6年生の2学期には、小学校段階の「おのみち学」等で学んだことを保護者や地域の皆様へ発表する場として、「伝統文化祭」のような発表会の開催を目指したいと考えています。この画面では、開校2年目の令和8年10月24日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

小学校では、現在土堂小学校をはじめ市内数校の小学校で実践している、学びの「基礎・基本」を大切にした「モジュール授業」を展開したいと考えています。これまで積み上げてきている土堂小学校の実践を活かし、林芙美子、志賀直哉等の文学作品を取り入れた音読教材や尾道の産業やデータを取り入れた教材の開発ができればと考えています。

次に、9年間の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた学びの集大成として、まちづくりへ参画し、商工業、観光、農林水産業、教育、医療、福祉等の視点から生徒自ら政策を提案していくような教育内容ができないか考えています。

中学校3年生のゴールイメージを中学校1年生の早期に持たせ、学習課題を設定（まちづくりへの政策提案をする分野を決定）させます。職場体験活動や進路学習も政策提案に向けた学習内容に組み込

み、総合的な学習の時間を核とした「おのみち学」を充実させていきたいと考えています。また、これらの学習を通して、15歳の生徒に身に付けさせたい力を育成していきたいと考えています。中学校3年生の2学期には、9年間の「おのみち学」等で学んだことの集大成を保護者や地域の皆様へ発表する場として、「まちづくり政策提案発表会」のような発表会の開催を目指したいと考えています。この画面では、開校2年目の令和8年11月20日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

スライドでは触れていませんが、中学校の部活動について、今後の休日の地域移行の動向にもよりますが、運動部、文化部の枠を超えて、地域活性化部というような地域に根差し地域を活性化させる目的を持って部活動を構成してみるのもいいのではと考えています。例えば、地域貢献部（ボランティア部）、伝統文化部（能、神楽、太鼓、茶道等）、ダンス部等が考えられると思っています。

以上のように、小中一貫教育校の柱になり得る教育内容について提示しました。これらは現段階の検討内容であるため、そのまま実現できるかは分かりませんし、新たなアイデアや考えによって再構成されることもあると思っています。教育委員会としては実現させていきたい内容となっておりますので、皆様方から意見をいただきながら精度を高めていきたいと考えています。また、今後統合に向けての機運が醸成されていけば、6校の教職員の皆さんと教育課程の編成やその教育内容について、これまでのパンフレットの内容や今日提示した内容も含め議論していきたいと考えています。

また、お示しした教育内容を実現するためには、学校だけではできません。小中一貫教育校では、説明しました通り、地域を基盤に置いた教育を行ってまいります。そのため、小学校区の枠組みや学校の場所は変わっても、また、山波小学校においても、子供たちが地域に向いたり、地域の方をお招きしたりして、これまで以上に、地域との関係を大切にしていきたいと思います。そのため、地域のみなさまのご協力が必要となります。ご理解をお願いいたします。

岡田庶務課主任

ここからは新しい学校の施設について説明いたします。学校再編により、冒頭からの説明のとおり統合小学校、統合中学校を設置します。

新しい統合小学校は、現在の長江中学校のグラウンド側のみを敷地とし、現在の長江中学校屋内運動場は老朽化のため建て替えとし、屋内運動場を校舎の中に配置した、5階建ての校舎を建築します。校舎の供用開始は令和9年度からとなります。その後、屋内運動場のあった位置にプールを新設します。プールは令和11年度からの供用開始となり、それまでは現在の長江小学校のプールを使用します。

新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。3階建ての見込みで、令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

中学校の整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、

令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年度から新校舎での学習が開始されます。その後、既存校舎の解体等を行い、工事は終了します。

小学校の整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

ここまで、施設の概略を説明しました。

ここからは、先程ご説明しました新しい学校での教育を実現するため、施設面で新しく取り入れる機能を説明します。大きく3つのものを取り入れていく予定です。

- ① ロッカースペース導入による専門科目教室の設置
- ② ワーキングスペースの設置
- ③ プロジェクタ方式の黒板の導入

です。詳細については、次のとおりです。

まずは、①ロッカースペース（ホームベース）導入による専門科目教室の設置ですが、これは、今まで各教室に配置しておりました個人のロッカーを、ロッカースペースとして別の場所に設置し、教室からロッカーをなくします。一日の始まりは、荷物をロッカースペースへ収納し、1時間目の授業は時間割教科の教室からスタートします。このことにより、今まで普通教室としか機能していなかった教室を、国語や英語や社会などの専門科目教室として使用することが可能です。各教室内は、その教科に特化した掲示や備品を整理でき、中学校をはじめ、小学校における教科担任制への手助けとなると考えています。

この度提案しております案の検討にあたり、教育委員会も他校の視察を行っており、先進的な取り組み例を参考にしております。

例えば、こちらは叡智学園の例です。特徴的な校舎の作りで全体像は取り込めませんが、水色の教室スペースに対し、赤のロッカースペースを設置し運用しております。

例えば、新しい中学校の整備イメージですが、従来までであれば、こちらのようなレイアウトが考えられます。多くは、64㎡の普通教室を整備し、各学級のクラスルームがあり、ロッカーも教室内へ設置している形状です。

こちらが、新しい学校のレイアウトイメージです。ホームベースと呼ぶロッカースペースを各学年1スペース設けます。各教室は100㎡程度とし、各教室のしつらえを教科ごととし、専門科目教室の充実を図ります。自分のホームルームは設置せず、教室の多様な仕様が可能になります。また、1年1組等のクラス編成は行いますが、1年1組の教室を固定しない、朝夕のホームルームは1時限、最終時限の教室にて実施するというイメージになります。

次に、②ワーキングスペースの設置です。これは、スライド17“協働的な学びの実践”のため導入するものです。これからの教育は、自分でテーマを設定し課題を探究するスタイルへと変化しており、グループワークを行うスペースの確保を行う予定です。イメージとしては、図書室付近にスペースを創出し、グループワーク中に図書室やタブレット端末で、自分で調べ物を行うイメージです。またこれに合わせて、各教室の面積を1.5倍にして、教室内にもスペース創出しております。叡智学園でのイメージです。

ここでは各教室の真ん中にワーキングスペースを配置しており、図書メディアの近くでは、タブレット等を用いたグループワークが実践されてきました。

こちらが、新しい中学校のイメージです。校舎の端を利用し、ワーキングスペースが創出できるかと考えています。

こちらが教室内のワーキングスペースです。教室の後ろ側にスペースを確保するイメージです。すなわち、ワーキングスペースが複数箇所設置でき、新しい教育への手助けになると考えています。

また、画面にあるような、黒板はプロジェクタ方式の導入の考えております。先生の説明用に加え、各児童生徒のタブレット端末を写すことで、グループワークの成果の共有ができることに加え、ホワイトボードとしても利用できます。特にワーキングスペースなど、壁に投影できる特徴を生かし、充実した授業ができることが期待されます。

また、理科室等の特別教室の作りも、実験台を固定化させず、この教室を理科だけでなく、他の用途、例えば少人数教室等としても利用することを想定し、これまで以上に利便性を上げていく予定です。

これらの施設は、中学校施設での本格的導入を考えています。

小学校施設については、従来型の良さも活かしつつ整備を行いたいと考えています。小学校高学年でこれらの機能に触れることができ、中学校生活に移行できるよう体験的な意味合いで小学校では一部の場所で①～③の施設を整備したいと考えています。

さて、学校再編案については、これまで、育友会・PTA役員さんとの意見交換会を中心に据え、ご意見を伺いながら、ご覧のように、保護者や地域の皆様を対象とした説明会や、議員の皆様への説明会を開催してまいりました。保護者・地域への説明会等にご出席いただいた方々の人数等については、資料3の通りです。また、資料4に、3月25日からの第1回地域説明会でいただいた主なご意見やご質問を整理しておりますので、ご覧ください。なお、資料4記載のページ数は、尾道市教育委員会のホームページに掲載しております、各地域説明会の議事録の中の、代表的なページを示しています。第1回地域説明会では、土堂地域では、長江通りの安全確保、地域説明会の在り方、土堂小教育の評価、土堂小学校の現地存続について等、久保地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について等、山波地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について、統合のメリット・デメリットについて等、長江地域では、小中一貫教育校について、長江通りの安全確保、新しい校舎の地域開放について等のご意見をいただきました。また、今後、6月3日から小学校区ごとに、第2回地域説明会、

三浦学校経営企画課長

6月7日に第3回議員説明会を開催する予定としています。

本日は、保護者説明会、地域説明会で、多くの保護者、地域の方からご質問をいただきました、通学路の安全安心の確保について、現段階における取組状況について説明します。

新しい小学校への主な通学路として考えられる長江通りについて、4月20日に、教育委員会、長江小学校長、道路管理者である広島県、尾道警察署、長江小学校の育友会長さんで合同点検を行い、通学路の安全安心のため、何ができるか協議を行いました。その結果、次のふたつについて、実施に向けて取り組んでいくこととなりました。

一つ目は、長江三丁目の千光寺方面との交差点と、旧長江小学校の前に、注意喚起の表示や着色を行うこと、二つ目は、現在、北から途中まで引かれているグリーンラインを、長江口近くまで延長することです。

今後も、どのような対策を行うことができるか検討し、通学上の安全安心の確保に努めてまいります。

また、新しい小学校への路線バスを活用した通学支援については、その可能性を検討しているところです。小学校3km以上としております学校統合の本市の通学支援の基準を踏まえ、通学距離や対象学年など、どのようなあり方が考えられるか検討してまいります。

尾道市では、安全な給食提供を継続するために、市内の老朽化した給食施設を計画的に整備していくこと、また令和8年度からは、市内全中学校での全員給食開始を目指し、施設整備事業に着手しています。

現在、関係する小学校では、栗北学校給食共同調理場から給食を配送しており、また、関係する中学校ではデリバリー給食を提供していますが、新たに高須地区に2,500食規模の給食センターを整備し、今の予定では、統合校（久保小、長江小、土堂小、久保中、長江中）のほか、三成小、栗原北小、吉和中、日比崎中、美木中へドライシステムの調理場から給食を配送する計画として事業を進めています。

また、食育については、既に取組の一例として栗原北共同調理場では、調理作業の映像を撮影し、関係校の児童が視聴できる取組なども行っていることから、自校給食の学校のみならず、新センターからの配送となる学校においても、その取り組みは継続すること、また新施設の中にも調理場内での作業が見学出来るスペースを整備する予定であること等、いずれの学校においても、同様の食育の取組が出来るよう計画していきます。

また、児童生徒への配慮についてのご要望をいただきました。令和7年度の統合に際しての、児童生徒の不安や負担は大きいものと考えています。そのため、前の年の令和6年度から、児童・生徒間の交流を行うことで人間関係を構築してまいります。また、統合時に中学校3年生となる生徒が、スムーズに新しい中学校に馴染むことができるよう、各学校の授業進度や授業内容を合わせていくとともに、久保中学校と長江中学校にある部活動の種目は、当面維持することで、所属していた部活動がなくなるのではないかとという生徒の不安を払拭してまいります。そして、久保中学校と長江中学校の地の利を生かして、部活動の合同練習を行っていくなど、部員どうしの交流を深めてまいります。最後に、新しい学校の開校時は、各小学校、中学校から教員を配置すること

<p>宮本教育長</p>	<p>で、児童生徒の不安を可能な限り解消できるよう努めてまいります。 長くなりましたが、以上で終わります。</p> <p>また、第3回の保護者説明会、地域説明会についても、日時は未定ですが、今後行うことを検討しています。</p> <p>この後、質疑応答を行います。その前に、今年度就任しました宮本佳宏教育長が、学校再編についての思いを述べさせていただきます。</p> <p>それでは座ったまま失礼いたします。ここ長江小学校、土堂小学校、久保小学校、山波小学校の4つの小学校、そして長江中学校、久保中学校の2つの中学校は、いずれも長い歴史と伝統のある素晴らしい学校ばかりでございます。そうした中、複雑な気持ちでございますけれども、児童・生徒の減少を踏まえまして、学習集団の適正な規模の確保を図り、子供たちの教育環境を充実させる観点から、現行の計画で学校再編を進めさせていただきたいと考えております。学校を再編し、新しい学校を創るに当たりまして、まず大切にしたいことは、それぞれの今の学校の良いところ、そして地域の宝、こうしたものをしっかりと継承し、教育活動の中に活かしていくかということでございます。その上で、社会の変化が激しく、これから社会で活躍する子供たちは、未知なる環境、未知なる仕事に対応していかなければなりません。そうした現代の教育課題を踏まえて、私は新しい学校をこんな学校にしたいと考えております。</p> <p>子供たちにとりましては、新しい学校の勉強がさらに楽しくなったと思える学校、保護者の皆様にとりましては、この学校はこれまでの各学校の良さを活かしながら、新しい教育が行われていると思える学校、地域の皆様にとりましては、地域を大切に、郷土愛を育てながら、新しい教育をしていると思っただけの学校でございます。</p> <p>そして、県内や県外の先生方から、「尾道にできた新しい学校はすごいそうだ。」「尾道に行ってその学校の子供たちを見てみたい。」、そう思っただけの学校を創る決意でございます。</p> <p>先程のプレゼンに私の強い思いで組み込んだ教育内容がございます。その話をさせていただきます。まずモジュール学習の導入でございます。私は、平成30年度から3年間、土堂小学校の校長として、モジュール学習に取り組みました。その実効性・有効性は、大変高いものがあると実感しております。モジュール学習というのは、15分程度の短い時間で行う学習で音読・計算・漢字などを繰り返して定着を図る学習でございます。新しい小学校や山波小学校でもモジュール学習を行い、子供たちの集中力を養うとともに、基礎基本の学力をしっかりと育成したいと考えております。</p> <p>次に、新しい授業のイメージでございます。先日、大崎上島町にあります広島叡智学園に行きまして、これからの時代に求められる新しい授業の姿を見てまいりました。すると、叡智学園に行ってみたく、教育委員会の職員から自分も叡智学園に行かせてほしいと次々に声が上がりまして、来月新たに10名の職員が叡智学園に行つて授業を見てくる予定にしております。叡智学園の教育を尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていきたいと思っております。叡智学園で行われている授</p>
--------------	--

業をもとに、新しい授業のイメージを、国語を例にお話をいたします。

物語文を学習する際、これまでは、先生が、「今日は登場人物が〇〇したときの気持ちを考えましょう。」と、先生が学習課題を示し、教師主導で、子供は受身の姿勢になりがちでした。これからの新しい授業イメージは、先生が学習課題を示すのではなく、子供たちが自ら学習課題を決めて、主体的に学習を進めていく授業です。例えば、4、5人のグループで、まず個別に文章を読みます。次に、みんなで考えたことを学習課題として発表し合い、自分たちのグループの学習課題を決めて、読みを深める授業でございます。この授業は、真の意味で、子供たちの主体性から生まれる学習となります。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思います。そして、多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる感性を養うことにも繋がると考えています。ここで大切なのは、このようなグループがいくつもあるということです。他のグループの考えたことを聞いてみたいという新たな学習意欲が生まれ、互いにグループで発表し合い、気づきを交流し合うことによって、子供たちの学びがより広がったり深まったりして、大きな学習効果が期待できます。

次に、グローバルな学び、英語教育についてお話をいたします。これからの子供たちにとって、英語力は必須でございます。小学校1年生から英語教育を充実させ、中学校3年生で、全ての生徒が日常の会話ができるレベルの教育を行いたいと考えています。そのためには、学校生活の中で、英語を使って聞いたり話したりする場面を、今よりも劇的に増やしていきたいと考えております。例えば、全校朝会で校長先生に一部を英語で話していただくとか、子供たちに「今英語で話したことはどんなことだったと思う。」と聞いていただく。そして、子供たちに日本語ではこういう内容だったんだよっていうことを教える。子供たちが昼の給食時間に給食委員会が放送します、〇〇委員会が校内放送します、その放送も基本英語で行う。小学校は学期に1日、中学校は学期に1週間程度、英語だけで生活する時間を意図的に作る。ただし、子供たちが困らないよう、小学校1年生から学校生活に必要な英語を教え、子供たちが英語を使って生活できるように支援していく。オンラインを使って海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光で来られた外国の方とリアルに英語で交流したりする。こうした教育を実現するためには、先生方や子供たちが困らないように、英語の教員やALTの配置、英語の堪能な地域・保護者のボランティアの方など、人材の確保が大切だと考えておりますので、人材の確保をしっかり考えていきたいと思っております。

続いて、ローカルな学び「尾道学」についてでございます。この地域には、誇るべき歴史・文化・産業がございます。偉大な先人がいらっしゃいます。こうしたことを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間で、「尾道学」として、探究的な学習を行いたいと考えています。探究的な学習とは、先生が教えるのではなく、子供たちが興味関心を持ったことを学習の出発点とし、子供たちが学びたいことを学びたい方法でとことん調べ、それをまとめて発表する一連の学習を指します。未

知なる環境への適応力を身につけるための新しい教育方法の一つです。尾道学の取り組みには、地域の皆様や保護者の皆様の協力が必要でございます。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史・文化・産業などに詳しい地域・保護者の皆様の、ゲストティーチャーとして積極的に学校にお招きをし、尾道学の充実に繋がりたいと思っております。尾道学のキーワードは地域への貢献でございます。そのため、学習のゴールとして、小学校では伝統文化祭、中学校では、まちづくり政策提案発表会を考えました。中学生の新鮮かつ独創的なアイデアで、新たな尾道名物が生まれたり、尾道を活性化する新たな産業が生まれたりすることを期待したいと思っております。

次に、在校生や先生方への配慮についてお話いたします。先生方の意識が統合に向き、労力や時間が取られるということで、統合前に卒業する在校生の教育は大丈夫かと心配されている方もいらっしゃると思います。絶対に在校生の教育がおろそかになってはなりません。

今、学校に通って頑張っている在校生の教育に支障がないよう、教育委員会として、在校生や先生方への配慮をしっかりと行っていきたくと思っております。また、学年の途中から新しい学校に編入することになる在校生への配慮は当然しっかりと行ってまいります。学校を統合するまでの期間における合同学習や合同行事、新しい学校にスムーズに適応できるようにするための体験的な学習を実施いたします。新しい学校における教育内容や教育方法を説明し、子供たちがワクワクドキドキして開校日を迎えることができるようにしていきたいと思っております。

また、子供たちや保護者の皆様が安心できる教職員の人事、先生方もスムーズに新しい学校での教育活動ができるようにするための研修をできるだけ負担をかけないような方法で行っていきたくと思っております。

終わりに、小中一貫教育校は、これからの尾道の学校教育をリードし、その成果や方法は市内の他の学校へ普及し、尾道全体の教育を新たなステージへと引き上げていくものとなります。それを実現するためには、教育委員会だけでは無理です。地域や保護者の皆様のご理解とご協力が必要です。どうか私たちと一緒に新しい学校を創ってまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします。以上でございます。

4 質疑応答 18:53～

教育委員会事務局
(司会)

教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思います。質問のある方は挙手をしてください。

住民1

私は子供を、海外で3年間、小学校の教育を受けさせたことがあります。イギリス系の小学校です。そこの小学校の生徒数は、1クラスが約20人。私は、本当に理想的な教育環境だと思いました。そして、子供たちも切磋琢磨して、コミュニケーション能力もとても高いです。だから、小規模学校でも十分やっていると私は考えております。

質問なんですけども、海外のそういう教育システムを視察したり、

また、尾道に取り入れようとしたことはありますか。まずそれが1つ目の質問です。2番目としまして、小中一貫校について伺いまして、英語教育の充実、これはとってもしっかりしていると、ぜひ、小学校1年から英語教育を始めて、そして、答えを教えるだけの教育ではなくて、自分たちでテーマを作って、それで自分たちで答えを導いていくという、そういう新しいシステムっていうのは、私もとっても共感を持ちました。

ただ、今回の小学校と中学校は同じ敷地じゃないんですよね。行事なんかも一緒に行うんですか。入学式、卒業式、それから、学年ごとの文化祭、体育祭、そういうのは一緒にやるんでしょうか。それをお聞きしたいんですよ。と言いますのは、私の子供が行った学校も小中一貫校です。海外の中学校は5年生です。だから、11年まであるんですよね。日本で言ったら高校2年生まで一緒なんですよ。そういうのが一緒に、そういう生徒と一緒に集まって、式典や文化祭、それから体育祭があるんですよね。いろんな式典があるんですけども。そういうところに子供たちが出て行きます。海外では、イギリス系の学校では、ダンスパーティーがあるんですよ。そのセレモニーの後に、女の子はドレスを着て、そして男子はタキシードを着て、ちゃんとジェントルマンになる教育を子供のときからやってるんですよね。とても良い教育をやってました。だから、ぜひ、今回の小中一貫校、これは小学校と中学校が別々だと、教育ポリシーがたとえ1つとしても、あんまり実感が、メリットがわからないと思うんですけども、小さい子供、それから小学校と中学校が合流して、お互いの考え方、それから年上の人に接する仕方、また年下の人に接する心遣い、そういうのを学ぶ機会をぜひ作ってください。以上です。

小柳学校教育部長

まず、2つ大きくご質問をいただいたと思います。

まず、海外の教育システムについて、視察とかされたかということですが、今回の新しい学校を創るに当たって、海外への視察は行っておりません。私たちは、日本の教育制度の中で、新しい学校をどうするべきかということを考えていただきましたので、一番考えているのは、小中一貫教育校が相応しいのか、義務教育学校が相応しいのかというその2つを比較して、県内とか、全国の先行事例から学ばせていただきました。

それから、小学校と中学校が一緒に行事をした方が、さらによい学びができるのではないかというようなことだったと思います。今回、提案している小中一貫教育校は、施設が分離している学校になります。本当は施設が一緒になれば良かったんですけども、なかなか敷地の関係とか、校舎の規模の関係で、分離型にせざるを得ないということで、今提案させていただいてます。基本的には小学校と中学校で先程言われたポリシーは一緒ですけども、そういった行事まで全て一緒にすることは、距離が近いとはいえ、大変難しいと思います。山波小もありますので。ですけども、全くしないということは考えてないんですけども、これはやっぱり学校の意向もありますので、教育委員会だけの意向ではちょっと難しいんですけども、年間に何回かは、

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>やはり小中一貫教育校ですから、一緒に学んだりする場はぜひ作っていききたいというふうに思っております。</p> <p>他に質問のある方はございませんでしょうか。</p>
<p>住民2</p>	<p>すいません。ここで質問していいかわからないんですけど、建物の件なんですけど、今の中学校の上に、5階建てを建ててということはちょっと非常に大きい建物が建つんじゃないかと思っているんですけど、それはやはり5階建てでないといけないのでしょうか。</p>
<p>石川庶務課管理係長</p>	<p>建物の大きさについて、簡単にご説明をいたします。5階建てという中で、全てが部屋というよりは、1つ屋内運動場が校舎の中に入っているという要素が入っております。今考えているのは、1階から4階は普通の部屋、5階部分は屋内運動場と思ってください。ということで、どうしても高さが必要になってきているということです。4階までの中で説明もありましたが、低層階になるべく教室を置き、上の方に活動の場というようなことで、校舎を設計してまいります。限られた敷地でございますので、現在5階建てを想定しているということでございます。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>女性の方どうぞ。</p>
<p>住民3</p>	<p>校舎の件なんですけれども、中学校の方は、久保中についても長江中についても100%耐震ができてるかと思うんですが、それを使わずに、新しく長江の方は運動場側に5階建てを建てると、久保の方も今度北側に新しい校舎を建てると、そこで、特に長江小学校になっていく現在の中学校の建物なんですけれども、おそらく5階建ての建物を建てたとしましても、今の子供の少子化を考えますと、あと10年後にはまた1クラスになる可能性ってすごくあるんです。と言いますのも、こういうふうに土堂小学校をなくす、長江小学校をなくすというのが、もう新聞に数年前からにぎわっているということになると、それとスーパーもなくなっていくという新聞等にも出ましたので、尾道に新しい家族を、子育てをする世代が駅前の辺に来なくなっていくという、非常に危惧が出てきました。そうすると、もっともって少子化が始まる、ひどくなる可能性がある。そうすると、10年後、1クラスになる可能性があるんですね。今、両方の建物で60何億という試算が出ているかと思うんですが、では10年後、1クラスになったときに5階建てはどうなるのか。それと久保中学校につきましても、別に今の校舎をリノベーションすれば、十分使えるんじゃないかと思うんですよ。そこへそれだけの大金をつぎ込む必要がどうしてあるのかというのがわかりません。それがこの9年間の小中一貫に何で繋がっていくのかというのが、ちょっと理解できないです。何か建物を建てるありきみたいなのが先にあるんですね。その説明をお願い</p>

住民 4

いします。

今言われたように、私もそう思います。私ら長江に住んでいるから、こんな建物を建てたいなと思って、2年前に家を建てたんですけど、環境があるから地味なのにしろとかね、そんなふうに言ってるのに、あそこのグラウンドに5階建てを建てて、あと何に使うのかというところまで考えているのかなと思うんです。子供らが少なくなってきて、その後、浪費でお金を使って、だいたい浪費で全部を使っているんです。その負担をどこから持ってくるのか、本当に今、多分利息だけしか銀行には払ってないと思うんです。それを、これだけいろんなものを建てて、子供のため子供のためと言うけれど、本当に子供のためなのかどうか、そんなのを建てて、自分がこんなのを建てたから記憶に残るとか、そんなのも残したいのかなと思うんですけど。

私もこの間、長江小学校に呼ばれて、子供たちと授業をしたんですけど、長江の伝統と、長江はどんなことが昔からあったか、ロバが通ったり、そんなこともあったんだという授業をさせていただいたんですけど、さっき言われたようなことは、もう進んでやっています。長江はね。多分土堂も、いろんな個性が強い勉強の仕方をしてると思うんです。

私も孫は外国で育って、英語英語と言うけれど、世界に出たら、学校で勉強してるより、実際に自分が肌で感じて、つまずいて、それでやっぱりこうしないといけないとか、こんなときにはこんな英語を使うんだというのを学んできて、この間会ったときに、外人の人と会ったらきれいに答えたりするようになるんだから。これからは特にですよ、今さっき言われたように、世界に向けて発信していくというか、細かく細かく形にはめるんじゃないくて、大きい子供を地域で育てていく。だから、困ったら、私はいつもバケツを下げて自分が好きなことをしてお金を入れてもらいなさいって、世界を回りなさいと孫に言ってるんです。潰れても立ち上がる子を育てていかないといけないと思うんです。形ではめるだけだったら、本当に家に閉じこもりますよ。そうじゃなくって、自分の意志をはっきり言えて、そんなこともすごく勉強だと思うんです。母親もみんな至らないので、私らがそんな子を育ててるから、もっと物の考え方をいいように取っていく。やっぱり言葉は大事なんです。私は一番大事なのは、英語もそうでしょうけど、国語が特に大事です。やっぱりこの言葉言ったらいけん、たとえ謝ったとしても、言われた人は忘れませんよ。言葉は大事で、人を思いやる子供を育てていかないといけんと思ったりしています。

長江通りも、交通が危ない危ないと言われますけど、結構みんな地域の人が危ないから立っているんですね、時間的にはね。それで、一方通行にしていますね。片側通行だけにね。それで、子供も危なかったらこんなふうにして通らないといけんということも学ばなければいけないのです。皆こっちがセッティングして、そのように子供を形にはめるんじゃないくて、転げたら痛い思いをする、そういうのもすごく大事なんじゃないかなと思っています。今の校舎も、いろんなところに建物を建ててますけど、外国は特に新しいものを作るんじゃないくて、そ

れをどうにか充実して、補佐をしていって、それを大事に使っていくことが、そういうことを学ばすことも大事なんです。ただ建てるだけだったらお金があればできるんでしょうけど、新しいものができたからといっていいとは思いませんよ。千光寺のあの橋でも、誰も良いつて言っていないですよ。お金はかかってますけど、屋根もないし、座るところもないし、なんであれにお金をかけたのかなと思って。今ちょっと形が外れますけど。やっぱりお金というのは、充実したお金を使わないといけないんですね。生きたお金です。だからそこらが、商売人とかね、そんな人のところへ行って体験もする、いろんな地域の人と関わって体験をすることもすごい大事です。今教育長先生が言われたように、土堂は土堂で生きたものを、やっぱり子供たちも自信を持ってやってるところがあると思う。長江は長江で、やっぱりこれはよそには負けたくない、そういうところも持ってますから、そういうところは伸ばして、自分にはあそこにはこれだけは負けないのだと。だから勉強ができなくても、自分が潰れたら立ち上がる。私はそうやって子供を育てているんですけど。もう世界に出ていったらやっぱりそれが一番大事ですよ。

英語が喋れなくても喋れるようになります。自分の息子も全然喋れなかったけど、学校に行ったら喋るようになったんで。だから、どこで学ぶか、どのようにして、充実して子供が、ここで育ってよかったというような学校にしていっていただきたいなと思います。

おたくらは、みんな頼まれて教育委員会の中に入られたけど、皆さんがずっとそれで関わるのならいいけど、いつもこう話し合いをした時に、前も話し合いをした時に教育長は辞めちゃったし、いろんな人が変わっていきますよね。だったら、前のことを聞いときゃいい、文章だけでは伝わらないことがあるんです。人の気持ちというのはね。言葉で話をして、初めてこの人がこの愛着を感じているんだなあというね、そういうところがあると思うんです。なぜ長江がこの間少なかったかという、学校にも従わないといけないし、揉め事もしたくないし、どうせ教育長、教育委員会が決めることだから、無理に行かんでもいいわというので、多分少なかったと思いますよ。そのあたりが皆さんとの交流が深めていければ、行って話もしないといけないとか、やっぱりそういうふうになってくると思います。今ちょっと教育委員会との距離があいてますよね。だから、それをちょっとでも縮めるように、多くの人に来ていただく、なかなか私らみたいに喋る人がいないので、心の中では思っているけど、なかなか上手に言えなかったりするんで、後の建物を、もし直していただけるのであれば、悪いところを直して、そこで育てていきたいという気持ちはあります。自分もここで育って、地域の人に育てていただいたので。私の孫も今小学校6年生ですけど、自分は地域で育てられているって子供が言いますよ。やっぱりそういうのが大事なのかなと、人を大事にするようにと言って大きくしてますけど。将来はどんなになるか分かりませんが、形にはめるんじゃなくて、形にはめて「これがいい。これがいい。」じゃなく、子供が本当にこの学校に来てよかったというような教育をしないとイケん。皆さんも学校を出ているから、多分そんなふ

<p>川 鯨教育総務部 長</p>	<p>うに思うと思うんですけど。あと、そんな60億円も使ってするんだ ったら、後10年後にはどのようにしたらいいかというようなね、市 長に持って帰ってもらいたいと思いますよ。じゃ、次の方。</p> <p>施設の話をちょっとさせてください。64億円。すごいお金ですよ ね。我々も64億円が高いなという感覚を持ちます。というのは、学 校1校を建設するのに、だいたい18億円とか20億円とかいうこと なんです。今回は、中学校と小学校とそれぞれですから、40億円の はずでしょっていうことになるんですけども、それが64億円はな ぜかという、今大変資材高騰がすごいんです。その上昇率がもう 1.78倍なんです。だから、単純に今までの例からする上で、1. 78倍、約1.8倍を計算すると、こういう数字になってくるというこ となんです。ですから、64億円をかけて、1校32億円をかけて、 今までにないような、凄い設備の学校を作るという感覚は持ってない です。その上で、64億円かかってしまうんだということで、それじ ゃあ、先程言われたように、新しく作るんじゃなくて、今の学校を改 修すればいいじゃないかっていうご意見が当然あります。ですが、実 は久保中学校はもう60年経ってます。60年経過してます。施設と いうのは基本的に80年。50年ぐらいから建て替えを検討して、文 部科学省の基準は、だいたい40年ぐらいで大規模改修しなさい、4 0年50年で。80年持つようにしなさいと言ってるんですね。です から、だいたい80年が建て替える基準になるのかなと、学校施設の 場合。そうすると、今60年経ってます。大きく改修すればあと20 年ですよ。あと20年持つんだけど、実は、久保中学校の具体的など いうか詳細なことを調べました。そうするとですね、なかなか 劣化が激しいと、やはり60年経ってるんだけど劣化度合いも厳しい と。その中で、今建て替えるのか、それとも今改修して20年後に建 て替えるのかということ判断させていただいて、逆に言うと、我々 は、久保中と長江中を統合する段階で、建て替えを選択させていただ いたということです。一方で、この長江の中学校に小学校という形に なるんですが、先程言われたとおり、子供たちの数は減ってますよ ね。そうすると、この長江の校舎というのは40数年ですから、久保 中ほど悪くはない。ただ、これをそのまま使うということになると、 いわゆる長江通りの東側と西側が全部小学校の敷地になるわけです よ。それを、今後また何十年間も続けていって、子供の数がこんなに 少ないのにこんな広い土地を使うのかということも考えました。その 結果として、西側のグラウンドに、小学校の場合は中学校と違って部 活とかないですから、グラウンドの基準面積もちょっと狭くていいん ですね。そうすると、今の西側の中学校のグラウンドを使いつつ、そ こに建物を建てて、残りのところをグラウンドで使っても、小学校の 基準面積を満たします。ですから、小学校としては、ダウンサイジン グした、小さくした、いわゆる子供の少子化に対応するような施設に する。そうすると、今の校舎がある東側が空きますよね。7年8年は 子供たちがいて、その間に校舎を建てましょうという形になりますけ ど、9年度に新たな小学校の校舎が建ちますと、そこに引っ越します</p>
-----------------------	--

ので、9年度には東側の今の校舎は空きます。そうすると、地区のためにあの土地は使えます。あの建物も使えます。こういった方が、我々としては、この長江地区にまとまった土地をとというのは非常に難しい現実がありますよね。そういった中で、やはり東側を地域の方のご意見を聞きながらですね、単純に学校施設としてではなくて、またいろんな使い方というのを一緒になって、教育委員会だけではなくて、いわゆる市全体ですよね。市全体の中で、どうやってあの土地と建物を利用していくかということが次の大きなテーマになっていくのかなということで、こういう選択をさせていただいた。ということが、ご提案に至った経緯というふうにご理解をいただければと思います。お金は多少かかるのですけれども、それともう1点は、国の補助とかですね、そういったものもあるんですよ。実は、いろいろ県などに伺いながら計算していくと、あまり差がなくなってくるんです。建て替えても大規模改修にしても、国の補助って補助率とかいろいろな条件があるんですね。そうすると、建て替えた方が、ちょっとお金はかかるんですけども、補助金をもらったりすると、その差が大分縮まるということで、ある意味チャンスではあります。上手に市の財源だけではなくて、国や県のお金を持ってきて、それを使って建て替えるということが、メリット感が大きいかなあと思っています。そういった中で、これを選ばせていただいた。20年後30年後に、また建て替えなければいけないんじゃないかということも含めて、考えさせていただいたので、今現在でいけばこれだけ差があるけれども、20年30年のスパン、また20年30年後に建物をどうするんですかという話が出てきますので、そういうことで判断をさせていただいて、ご提案をさせていただいたということです。施設は以上です。

住民3

引き続き質問なんですが、今の小学校の方ですね、5階建ての建物、これは10年後に1クラスになる場合に、そのまま20何億円掛ける1.何倍の金額がかかった新しい校舎がほぼ残っていくという形になると思うんですけれども。それと、さっきも補助金の説明をされましたが、いろんな建物を尾道は今建ててますけども、そのほとんどが、補助金があるから補助金があるからということで、いろいろ建てまくっておられますよね。ですけど、負担する部分も相当ありますので、市民が。やっぱり市民が納得する使い方、子供たちに本当に活かせるお金というのが必要ではないかなと思う。あと、中学校と小学校の教育の仕方というのは少し違っているんじゃないかなと思うんですよ。中学校は少しマンモスになってもいいかもわからないんですけど、小学校は今手がかかる子供さんがすごく増えている。全国的に増えてきている傾向があると思うんです。ですから、1クラス少人数、それから、やはり先生が目が届く人数で大事に子供を育てていくということが、すごく見直されてきている状況にあると思うんです。それをまとめてマンモスにしていくというのも、ちょっと逆行してるんじゃないかなと思ってるんですけれども。やはり小規模の小学校のメリットというのも、もうちょっと考えていただければなと思うんです。やはり低学年になると、手のかかる方もいらっしやると思います

<p>住民4</p>	<p>し、その辺りはやっぱり親が一番心配するところだと思います。それと、地域、地域の教育も、やはりそれは土堂、長江、久保も十分それはされているかと思えます。例えば、長江でしたら、同じ町内に小林和作さんの家がありましたけれども、尾道市はこれを倒そうとしたんですよ。これを残そうとしない。これのどこが地域を大事にされてるんかなという。あれは一生懸命、地域の方が阻止して何とか残すことになりましたけれども、尾道市はすぐに倒そうとする。やっぱりそういう不信感も相当根強いというのはあるかと思えます。</p> <p>すいません。一番ちょっと疑問だなと思うのは、やっぱり教師の先生が県外から来てですね、皆さんね、多分しんどいと思うんです。市外からね、市外から多分来てだと思えます。広島の方とかね、いろんな方からね。子供たちに何かあってもですね、やっぱりすぐに間に合わないんですね。だから、お金もかからないように地域の先生、近くの先生が近くをするような。昔はちょっと癒着するからいけんと言って、いろんなところから来るというのを考えたんかも分かんのですけど、やっぱり帰るのに一時間何ぼもかかったり、朝早くから来て、新幹線乗ってきちゃったりするんで、先生らも疲れてですよ。そういうことをなくしたら、経済も大分変わってきます。そういうこともちょっと案に入れてほしいなと思えますね。そうせんと、事故があったり、何かしたりしたときも、もう先生の電話番号も知らないんで。急に言うたらね、交通事故にあったりとかそんな時なんかでも、連絡の取りようがないんですね。それで火事があったりですね、今まで長江も火事がありました。その時に、すぐ公民館を開放していて開けたんですけど、子供の家が火事になったりしたんで、すぐ今日連絡しないといけないなと思った時も、連絡もつかんんですね。地域にいたら、すぐニュースで出て、すぐ駆けつけるということが出来るんですけど、やっぱりそういうのも大事じゃない。これからですね、教育委員会の方も、極力県外からじゃなくて、近くの先生でね、みんな良い先生がいっぱいいらっしゃるんで、そういう先生を使っていただきたいなあとと思えます。よろしくお願いします。</p>
<p>住民5</p>	<p>ちょっとお聞きしたいですけど。原田と木ノ庄西かな、木ノ庄東とかの統合をしましたよね。あそこらで何か問題が出ておるんか。メリットばかりなんか。もしデメリットみたいなものがあつたら、長江と土堂、今回統合したときに同じような問題が出ないのか。それが1点と、新しい学校の設備で、ワーキングスペースとか学校の授業、国語・社会・英語の教室がやっぱり変わるやつですね。あれのメリットは。ワーキングスペースというのはどういうところで使うのか教えてもらいたいと思うんですけど。よろしくお願いします。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>美木原小学校のことだと思います。原田、木ノ庄東、木ノ庄西、木頃小学校の4校が統合して1つになりました。今ですね、特に子供たちとか教職員のことと問題が起きているということは聞いてません。統合によって、本当に小規模だった学校、複式だった学校、また男女</p>

	<p>に偏りがあつた集団もあつたんですけども、やっぱり同一の集団で学ぶことができるようになって良かったっていうのを、私も保護者から参観日なんかに行ったときに直接聞かせていただいたりということはありません。課題とすれば、原田の一番福山寄りの方などは、通学距離が長い、バスに乗っているとはいえ、通学距離が長いということもありますから、そういったご負担をおかけしているということは、やっぱり何人かの生徒・児童さんにあるということを知っております。ですから、今のところ全体的に見ると、美木原小学校は落ち着いた雰囲気の中で授業はできているというふうに認識はさせていただいております。</p>
<p>住民 5</p>	<p>土堂の子は祇園橋のほうから来る子もいますよね。久保の子は尾道大橋の下の方から来るような子もいると思うんですよ。1、2年生にとっては、かなりの距離があつて、バスで通学するようになると言っても、定期バスはそんなに長江通りは来るわけではないから、そこら辺の何か対策を決めてほしいなと思うんですよ。そうしないと、親が連れてくるにしても、この長江通りは7時から8時半まで一方通行になってますよね。通学のために。そこら辺の対策もしっかり立ててもらいたいなと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>バス通学については、これまでさっきの説明の中でもさせていただいたんですけども、市内の統合する学校は、小学校では3 km以上をバスの支援をするという基準を設けています。が、地域によっては、やはり坂道があつたりとかですね、いろんな事情によって3 km以下でも認めている地域もあります。私たちも歩いてみたりして、距離を測ってみたりして、祇園橋のところをだいたい2.9 kmぐらいで、尾崎本町の一番端、尾道大橋の下ぐらいが2.5 kmぐらいあります。今後、今どれぐらいの子供たちがどういうところに住んでいるのかを調査したり、予算的にもどれぐらい必要なのかも調査しております。通学支援というのは基本的に路線バスを活用するんですけども、今後、路線バスを活用した支援がどのぐらいの範囲で出来るのかどうかも含めて今検討中なんです。最終的には統合をしてもいいよということになれば、保護者の方等ともしっかり話をさせていただきながら、支援方法を考えていきたいと思っております。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>それから、2つ目にワーキングスペースについてご質問をいただきました。今、通常の学校は、みんなが一人一人の机があつて、黒板の方を向いて先生から教えるを請うという授業形態が一般的ではあるんですけども、もちろんそうした形で知識を学ぶという授業も当然大切ではあるんですが、これからの学びというのは、説明の中にもありましたように、子供たちが問いといいますか、なぜだろうというのを持って、これについて勉強していこう、調べていこう、子供たちが寄って集まって、プレゼンの中では協働的な学びと言う表現を使いましたが、自分たちで学んで解を出していく、自分の言葉で伝えていくっていう授業がやっぱり大事になってくるんだというふうに思っています。</p>

	<p>それをするためには、ワーキングスペースと言って、平たく言えば、話し合いをしたり、一緒になって調べたり、最近ですからパソコン使っているんなものを考えたり、そういう空間を作っていきたいと思っています。これを「ワーキングスペース」と言ってます。さらに、専用教室がですね、今の学校では、理科室とか音楽室とかだけなんですけど、全ての教科にできるだけ広げていきたい。なぜかという、やはり英語の教室に入れば英語の空間なんですよ。歴史の教室に入ればもう歴史の空間なんです。そういう中で、子供たちの勉強に対する意欲であるとか、好奇心とか、そういったもの高めていきたいと思って、ワーキングスペースであるとか、専用教室ということをご提案させていただきました。</p>
<p>住民 6</p>	<p>長江はですね、ここにあるように、高齢者と共に小学生が楽しむ会という交流の会をしていますが、その辺はこれからの地域との関わり合いはどのようになるのか。高齢者の方も、小学生の3年生ですかね、参加してふれあいで楽しんでいらっしゃるということをお聞きするんですが、その辺の地域の高齢者の方に対して、どのような形、また地域がどのような関わり合い方をすれば良いのかなと思ひまして。もう関わらないで良いと言えばそれまでですけども、その辺はどうなのかなと思って。</p>
<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>地域との関わりについてご質問いただきました。説明の中でもいたしましたけども、やはり地域は非常に大事にしていきたいという思いを持っています。ただ、今長江小学校であれば長江地域、土堂であれば土堂地域というふうにありますけども、3つの小学校が1つになりますので、今の土堂地域、長江地域、久保地域が新しい小学校にとっての地域というようになると思います。ただ、コミュニティ・スクールというのを、今土堂さんがなってますけども、考えておられて、これはですね、地域の方が学校の運営に参画していくっていうのを、仕組みとして作るんです。年4回、地域の人と学校の人と一緒にやって会議をする。日常的にコーディネーターという方を地域から出していただきまして、その方と話をしながら、今度、地域の人とどこで学校の教育に参加してもらおうとか。こういう営みを地域と一緒にやったらいいよね、とかいうことを相談していく仕組みなんです。こういったものを新しい学校にも作りまして、長江のおじいちゃんおばあちゃんは子供たちとこういうことをしたいんだというのがあればどんどん上げていただきまして、学校としてもそれに可能な限り応えていくというような仕組み作りをしたいと考えております。</p>
<p>住民 4</p>	<p>今、会長が言われたように、私その長江の代表なんですけれど、毎月行ってます。年配が年配を支えてるんですけど、やっぱり交流を1日でも家から出て、笑っていただいて、それで帰っていただくというようなイベントを、ダンスをしたり、漫談に来ていただいたり、歌謡曲をしていただいたり。それを毎月ですね。それはもうずっと何十年も行ってます。今私が代表でしてるとは思いますが、今度は一緒に</p>

になると、小学校からのお願いで、やっぱり子供とおばあちゃんらと交流させていただきたいと言って、子供たちがおばあちゃんの家に行って演技をしたり、英語でおばあちゃんに喋ったら、おばあちゃんも英語が全然分からんとか言って、グループになってしていただいて、交流を持ってるんです。それを楽しみに長江小学校の先生も、また違う学区でも来させてくださいと言って、この度2回行ったんですけど、1年に一度はそういう交流を持って、おばあちゃんらにちゃんとお手紙を子供らが書いてくださって、元気でいてくださいとか、帰りは握手をして帰っていただくようにしてるんですけども、それは凄くずっと続いているんです。土堂はそういうのがなかったんで、土堂の方もここへ来られてるんです。私は来たい、みんなと関わりたいなという人は、もうどしどしここで受けるようにさせていただいてるんですけど、やっぱり子供たちも生き生きと来てくださるし、おばあちゃんらも子供が来たらにっこり笑ってるんです。普段、全然笑わない人でも笑っちゃって、やっぱり交流って大事なんじゃないかなと思って。おばあちゃんおじいちゃんを大事にする、おばあちゃんらも子供たちと接して、なかなか孫や曾孫なんかには会えません。この度コロナでなかなかできなかったんですけど、食事はできないけれど、距離をあけてマスクをして、それはもうずっとさせていただいてるんで、やっぱり今度も、またそれをずっと長く続けていきたいなと思って。喜んでいただいて、いつもおばあちゃんらもテレビばかり見る、子供らもゲームばかりじゃなくって、生きた教育、それをやっぱり私らができる範囲で協力させていただきたいなと思ってますから、また一緒になったときにね、いい方向に持っていかれるようお願いいたします。

住民7

2、3点あるんですが。本当教育っていうのは大事だと思っております。大きな学校が出来て、たくさん生徒を受け入れるということで、先生も大変なので、先生のフォローとかそういうものを、教育委員会とかそちらの方で、先生が倒れないようにしていただければと思います。それともう1点、これ、上からの教育とか、義務教育とかなので、ちょっと小学校1年から、ちょっと盛りだくさんな教科かなど。これで全員が全員、同じようなレベルでずんずん上がればいいんですけども、私みたいな落ちこぼれが出たら困りますので、落ちこぼれがないように。もう一点、いろんな場所とか、グループワークとかのいろいろ作ってますけど、部屋を作ってますけども、ロッカールームとか作ってますけども、できれば私の経験上、そういうロッカールームとかそういうところでいじめがありますので、その辺をどうしてもプライバシーとか経費がかかるということもあるかも分かりませんが、カメラをつけていただいて、だんだんいじめも定例化してきますので、その辺の昔のいじめとはまた違うと思うんですけども、その辺もちょっと大きくなるほど問題が出ると思いますので、いろんな子が来ますので。それはちょっとおかしいか。令和7年にはたくさんの子供で教育をされると思いますが、その辺の子供たちのケアをよろしくお願いいたします。以上です。

住民 8	<p>いいですか。いくつかあるので順番に聞かせてもらいたいと思います。プールについてなんですけれど、最近よく言われているのがプールの外部委託って言われてると思うんですけど、びんご運動公園を使うっていう案は検討されたことはあるんですかね。まず1点それを聞こうかな。</p>
川 鯨教育総務部長	<p>実は美木原小学校が、先程の原田とか木ノ庄の美木原小学校の統合の時に、あそこプールがないです、美木原小学校は。そういうことで、利用できるかっていうことを検討したこともあるんですけど、結論としてはできなかったんです。今、木ノ庄東小学校、旧木ノ庄東小学校のプールを利用しているという状況になってます。確かにですね、今時点は長江の中学校のところの体育館を壊して、そこへプールを持ってくるという方向で検討させていただいてるところです。</p>
住民 8	<p>分かりました。先程の英語教育の話も結構出てたと思うんですけど、英語は結構、幼稚園から皆さん英語教室に通わせたりとかしてる家もあったり、してない家もあったりで、入った瞬間からレベルの差は激しくなっていて、多分授業をやっても、全然できるできないの差が、他の科目と違って大きく違うと思うんですね。なので、できない子は多分ずっとできないまま行くんじゃないかなという懸念があります。今クロムブックとか、みんなに配ってるんですけど、あんまりよく活用できてないので、きちんとクロムブックとかパソコンを使ったりとかっていう英語をもっと充実させたりとか、あとは今、アプリでAIを使って、自分が話した英語をきちんと採点してくれて、こう話したらいいよっていうのを返してくれたりとか、文章作ってくれて、疑似体験するとかっていうのも話してくれるアプリとかもあるので、そういうものを使うライセンスを尾道市で購入して、皆さんで使えるようにするとか。塾に行かせてない家でも、英語学習がきちんとできるようにするっていうのは結構重要なのかなと思います。私の経験なんですけど、小学校6年生のときに、アメリカに行って来いって言われて、兄弟で英語が全然喋れないのに行かされて、1ヶ月ぐらいサマーキャンプに行ったら、英語の意味はわからないけど、聞き取りができるようになったりとか、中学校からの勉強の時にきちんと言うことが分かるようになったりとか、単語があればそのときもっと分かったのになっていう、単語を知っていれば小学校の時にいったときもっと分かったんじゃないかなっていうのはあったんですけど、そのおかげで結構その後行っても、きちんと喋れるようになったりするっていう、基礎がちょっとあれば、多分海外に本当に行きたい人は、行ってから英語だけの環境に身を置けば、2週間ぐらいでわかるようになるし、話せるようになるのも1ヶ月ぐらい、完全に英語だけにすれば意味があるんですけど、多分日本の教室の中で英語の真似をちょっとやっても、全然切羽詰まらないので、日本語でちょっと話をして、英語で真似してみようぐらいのことになるので、そこまで効果がないんじゃないかなっていう気がします。楽しみながらやるのはいいと思</p>

小柳学校教育部長	うんですけど、もっと地道な基礎をずっと練習するっていう環境を、みんなで作ってあげるのが必要なのかなという気はします。そのあたりの可能性をちょっと聞きたいなっていうのは、今は難しいかもしれないんですけど。
住民 8	<p>英語教育についてだったと思いますけれども、様々ですね、就学前から学ばれている方もいらっしゃるかもしれませんが、全くそうでもない方もいらっしゃるかもしれません。そういった実態等も踏まえて、当然1年生からのスタートということで始めていかないと、どの子供さんにもやっぱり英語を習う楽しさっていうのは味わっていただきたいと思います。小1で意欲をなくしてしまうと、もう語学の学習っていうのは中3まで高校生も苦痛でしかありませんので、やはり子供たちが意欲を持って取り組めるような環境には配慮していきたいと思います。この英語っていうのは、当然聞いたり、話しかけたり、読めたりするのは一番だと思いますけれども、コミュニケーション能力ですね。英語を使って話そうとするっていうことは、日本語を使って話そうとすることにも当然繋がってますので、英語をこれまで市内でも研究している小学校があるんですけども、コミュニケーション能力が日本語でも結構高くて、それは中学校にも繋がっているんだというのをよく中学校の先生からも聞きます。ですから、英語ができるには当然越したことはないんですけども、その他のコミュニケーション能力の育成にも期するものだと思っております。クロムブックとかアプリ、AIですね。クロムブックを導入して活用はしておりますけども、今後、AIの発達によって、チャットGPTとかいうのもありますけれども、これについては、今どんな活用ができるのかっていうのは国・文部科学省とか、私たちも今研究段階ですので、これについてはちょっと今の段階ではなかなか言うことは難しいかなと思っております。</p> <p>分かりました。ありがとうございます。これ以外に、人口減の話がされたと思うんですけど、10年後とか、何年か前の学校再編の時に聞かせてもらったんですけど、校区の再編。例えば栗原の近くまでちょっと広げるとか。せっかく学校を新しくして、内容もカリキュラムを変えているのに、人口減で受けられる人数が少なくなるっていうのはすごくもったいない気もするので、他の学校は人数多くて大変になってて、この長江の地区だけちょっと少なくてっていうのだったら、校区を微妙に変えるとか、グレーゾーンでどっちでも行けるっていう地域を作るとか、そういう感じの再編案っていうのは可能なのかどうかっていうのを聞きたいんですけども。</p>
小柳学校教育部長	人口減ということでですね、今後、学校がどうなっていくのかというか、本当にいろんなご心配の声をですね、聞かせていただきます。今、だいたい1学年1,000人って言っていたのがですね、今だいたい900人台にどの学年もなっています。昨年、令和4年で言いますと、出生数が594人だったというふうに思いますから、今後どの

	<p>地域においても、もつともつとちっちゃい学校になっていきます。現在のところ、そういった地域ごとの子供の数の推移を見させていただいてるんですけども、今回は、この再編計画ということで出させていただいています。今後は市内全体の学校のあり方を考えていかなければいけない時期があると思いますので、当面は今の校区、中学校校区は維持していきたいと思っております。この学校ですけれども、今回再編させていただいて、新しい校舎を建てるという案を出させていただいております。ということは、校舎の耐久年数が60年から80年とすれば、60年から80年は学校がここに残るとということで、私たちも提案させていただいております。ですから、このエリアの拠点校となりうる施設ということで提案させていただいておりますので、そこは地域に学校が残るということは意識して、考えていただきたいと思いますということは思います。</p>
<p>住民 8</p>	<p>分かりました。将来、他の学校は少なくなってきたら再編の可能性もあるし、いろんな可能性があるという感じで考えておきます。後、この前の全体の会議で、土堂さんが結構いろいろ言ってたと思うんですけど、今回の話で、多分、今土堂の小学校がなかなか「うん」と言わないという感じで、進んでいるんじゃないかと思うんですね。ただ、土堂小学校の場合は、裏の崖のところを直したらいいんじゃないかとかいう話が結構出ていると思うんです。あそこが現実的に直せるのかどうかよく分からないんですけど、費用をかけて直せるのであれば、今、土堂の小学校はバスで送り迎えしてて、結構お金がかかっていると思うんですけど、それを3分の1にするとか少なくして、費用を捻出して直すという方向性で、土堂はもう直してそこを使ってくださいという、そうしないとこの話が進まないんだったら、その方向もあるのかなと思うんですけど。土堂なしでも今の話が進むのか、それとも土堂が「うん」って言わなくてもそのまま進めていって、最終的には土堂も一緒に通ってくださいという話になるのか。土堂小学校の意向が、この再編案に関係するのかどうかというのを聞きたいんですけども。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>金曜日、先週の金曜日に全体の保護者説明会、それから土曜日に土堂地域で、マスコミにも大きく出ていたというふうに思います。私たちとすれば、多くの方に、私たちの今の小中一貫教育校構想を理解していただいて、前に進めたいというふうに思っています。ですから、現段階で、まだ皆様方、どの地域もですね、十分理解を得たとは思っておりませんので、今後も引き続いて理解を求めようとしていきたいと思っています。私たちは、土堂がいつまでも反対が多いから、土堂なしで統合するかそういう考えを持っておりません。やはり、どの地域も一体となって新しい学校を創っていくんだという、やっぱり皆さんそういった思いになっていただきたいと思いますので、そこは私たちも何度も出向いて説明したり、理解を求めていきたいと思っています。</p>

住民 8	<p>分かりました。でも、なかなかOKって言わないまま、これがズルズルいくのは、今の仮校舎にいる子供たちのためにならない気がするんですよ。どこかで線引きをするなり何かしないと。やっぱりこのままずっと仮校舎って訳にもいかないと思いますし。そうですね。長江小学校と中学校が一緒になっていることで、長江小学校の子供たちは運動場で思いっきり遊べない。裏のちっちゃい公園みたいなところで遊んでたり、ドッチボールをしてたりっていう状況がずっと何年も続いているので、そこらへんを解消してあげるのも必要なんじゃないかなと思うので、土堂が反対してできないって言うんであっても、長江と久保はこれでもいいって言った場合は、進めてもらいたいなっていうのが正直なところなんです。もう、そんなん言ってるところは勝手にしてくれ、今のところでいてくれたらいいんじゃないのっていうのが正直なところなんです。自分たちの地域の子たちが我慢してるのをわざわざ見過ごして、向こうが「うん」と言うまで待ちますっていうのはちょっと違うかなと思っているので、みんな一緒に納得してくれればいいんですけど、納得しなくても進められるのかどうかっていうのはどっかで決めてもらいたいなとは思っています。</p>
小柳学校教育部長	<p>私たちとすれば、現状賛成の方もいらっしゃいますし、反対の方もいらっしゃるというふうに思っています。皆様の合意が得られれば、文句なしに統合ということになりますけども、私たちの考え方に全員が賛成していただけないということはあると思っています。ですから、引き続き、各地域や保護者の方にご理解を求めながら、ある時期ではやはり教育委員会として、3小学校の統合、それから2中学校の統合、小中一貫教育校を作っていくというのは、教育委員会として決断させていただいて、議会に諮っていくということはさせていただきたいと思っております。</p>
住民 8	<p>分かりました。ありがとうございました。最後に、先程学校の先生の話が出ていたと思うのですが、新任の先生が担任になったことがあるんですけど、その先生の話を知ると、だいたい3月末に辞令が出て、4月の初めから尾道に赴任するのに、住むところが尾道市内でなかなか見つからなくて、仕方がないから三原とか別の市に家を借りて、通うことになったという人もいます。長江は空き家がいっぱいあるので、先生の異動が決まったらじゃなくてもいいので、先生が住むための仮でもいいので、いくつか空き家を確保して、使える状態にしておいて、そこを先生に使ってもらうか、災害が起こった時に一時的に使えるように整備しておくとか、空き家を安価に借り上げて使える状態に整備しておくことは尾道市の予算として可能なのかどうかを聞きたいのですが。</p>
三浦学校経営企画課長	<p>先程の方も市外の教員が最近多くてということですが、教員の人事は県の教育委員会がやることなんですけども、地元の先生が増えてもらいたいという思いは我々も一緒ですから、そこはしっかり県とは毎年話をしているところです。住まいにつきましても、赴任が決まりました</p>

<p>住民 8</p>	<p>ら、校長としっかり相談をしてということで、校長にもあらかじめ「家のことも相談に乗ってあげてね。」ということも言わせていただいているのですが、なかなか時期的にも家がない現実ということはいくも聞いています。ただ、ご提案いただきました、空き家をあらかじめ押さえておくということにつきましては、正直今まで検討しておりませんでしたし「今ここでこうしますよ。」ということも言えませんので、ご提案ということで聞かせていただければと思います。</p> <p>先生向けにと言うと、予算がなかなか下りないと思うので、災害時用とか別のいろんな用途で使えるようにとか、火事になった人の一時的な住まいとか、空き家の中をきれいに整備するだけなので、賃貸費用を負担しなくてもいいような状態で、中の整備、時々風通しとか、それを持ち主に依頼しておくとか、安い金額で管理して、実際に使う時には賃料が発生してもいいと思うので、せっかくあるものをそのまま放っておいたら多分空き家がどんどん増えて、雨漏りもして、整備しなくなるので、何かしら使う可能性があるものは、使えるようにしておくという準備だけでもしておけば、災害時でも先生にでも、いろんなことに活用できるから、そういうのを尾道市として何か準備ができればいいんじゃないかなと思います。いろいろ質問させていただきましたけど、以上です。ありがとうございました。</p>
<p>住民 4</p>	<p>先程いろいろ教えていただきました教育理論なんですけど、学校の統合は令和7年ですか、新しく校舎が建て替わってというのは令和9年からになると思うのですが、では教育理論はいつから始まるのですか。特別教室を用意して、それができるなら、別に今の建物をリノベーションして十分できるのではないかなと思うのですが。2年間それで済ませられるのであれば思ったりするのですが。わざわざ豪華な建物を建て直さなくても大丈夫じゃないかと。いうのが、今プレハブで3年以上我慢させています。また、統合したとしても、そこから2年間工事が始まって、それからまた2年かかってプールを造っていく。合計4年、まだ先、来年からだったら6年後になるんですね。最終的に完成するのが。それはちょっと長すぎるんじゃないかなと思うんです。3校統合の話がまとまるかどうかということもあるんですが、校舎の利用の仕方につきましても、工事を考えると4年間以上かけて、それから造っていくという計画は果たして正しいのかどうか、そのあたりをお聞かせ願いたい。</p>
<p>川 鯖教育総務部長</p>	<p>リニューアルするのも、実は子供たちがそこに居たままリニューアルできないので、大規模改修になっちゃうんですね。そうすると、子供たちはその間、どこかに仮設を作らなきゃいけないということになります。だから、やはり中学生が動いて、長江で言えば長江の中学生が久保中へ動きますよね。久保中の方へ動く。それで、久保中にいる久保小の子供たちが、土堂と一緒に長江の今の校舎に移るという形の中で、初めて工事が始まるんですね。だから、実際は仮設を作ったりとか、複雑なので、ちょっと説明を端折らせていただいているとい</p>

	<p>うところなんですけれども、やはり、今ご紹介したプラットフォームとかロッカーをこうしますとかいうのは、新しい校舎になってからということになります。ただ、ハードの部分はそうなんだけれども、ソフトの部分っていうのは当然新しく、新しくというのがですね、統合に向けた準備というのは時間をかけてやるわけですよ。1年とか1年半とかかけてやります。その中で、各校の校長先生を始めとして、どういう教育がいいのか、カリキュラムがどうだとか、そういったことも検討する中で、やはりあるべき姿、というか目指すべき姿、というのを共有しながらやっていきますので、いわゆる開校準備になった段階から、それに向けてスタートすると。7年度ของときにはソフト部分についてはまさにスタート、施設的な部分はやはり9年度からという形だのご理解いただければと思います。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>それでは、予定しておりました時間も過ぎましたので、質疑応答の方を終了させていただきたいと思ひます。それでは最後に小柳学校教育部長から閉会の挨拶を行います。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>5 閉会</p> <p>失礼いたします。今日たくさんのご意見をいただいたというふうに思ひます。私は本当に長江通りの安全指導については、地域の皆様が本当に子供たちの安全を見守ってくださっている姿も見させていただいておりますし、この中でも毎日立ってくださっている方の姿も見させていただいております。また、子供たちの関わりについては、本当に細やかに子供たちと交流をしていただいて、本当に子供たちの成長に繋がっているというふうに思ひしております。本当に感謝申し上げます。今日は、3月30日以降の取組内容について報告させていただいて、小中一貫教育校の教育内容や施設、通学路の安全対策について説明をさせていただきました。本日で一応、保護者と地域の第2回目の説明会が終わるわけですが、またこれらを踏まえまして、さらに理解が深まるよう次回、また計画してまいりたいと思ひしております。私たちは未来を担う子供たちのために、尾道のモデルとなる小中一貫教育校を強い思いを持って実現させたいと思ひしております。そのため、私たちも教育内容や施設の充実に向けた視察や研修、通学の安全対策等取り組んでまいります。本日は説明会にお集まりいただき、どうもありがとうございました。</p> <p>20：10 終了</p>